

今日の説教のポイント<ローマの信徒への手紙 3 章>

①神による世界と人間の創造。そして神でなく己を主とした人間。

これまでの2週の礼拝で聞いた創世記の内容をまとめると、

- 1) 神は御自分以外のものと喜びを共にするために世界を造られた。
- 2) 神は人間を御自身と自由に応答し合える唯一の存在として造られた。人間が自ら喜んで神に従うなら、神は最も喜ばれるはずであった。
- 3) しかし、全ての人間は神から離れ、神と喜びながら生きる本来の状態（創世記 2:7）ではなく「恥」の状態（創世記 3:7）を生きている。

②全ての人は罪人 暗い話？ 否、途方もない明るい話への入口！

アダムとエバが蛇にだまされる話は罪の起源を示す話ではなく、全ての人が罪（ハマルティア：神という的をはずして生きること）の中にあることを告げる話です。これだけ聞くと何とも暗い話です。しかし、不安（創世記 3:7 の恥に注目）なしに生きている人間はいません。だとすると、この「暗い話」は、実は、その私たちの罪から来る羞恥心、つまり不安を打ち破って下さる神様がおられることを告げる途方もない明るい話の入り口でもあるのです！ パウロがローマ書 3 章 21 節以下で語ろうとしていることがまさにそのことなのです。

③パウロに示された理解 1 — 「頑張れ」という励ましではなく

21～26 節を読んで下さい。パウロはここで、罪故に自分ではどうすることもできない私たちに神様が「頑張れ」と叱咤激励しておられるとは告げていません。そうではなく、神様は私たちに御子イエス・キリストをお与え下さり、それによって私たちが行くべき道を神様御自身が用意して下さったのだと告げているのです。「人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです」(22-23)。

④パウロに示された理解 2 — 御子による関係回復を信じるとき

人間の方から壊した神様との関係を、こともあろうに神様の方から修復して下さる？！ それがイエス・キリストの誕生と共に始まった神様の驚きの救いの道なのです！「私たちは、主なる神を受け入れ、神が関係を回復し維持して下さる方であると信頼することによってのみ、この関係に入って行くことができる」（アクティマイアー）。